

いましたが、花粉が重く遠方へ散布されないために、現在では花粉症の候補にはなっていません。この植物には、サポニン、タンニン、フラボノイド、精油などが含まれています。

メディカルハーブとしては、腎臓の強壮剤として長い歴史をもっています。一般的な適応症としては、腎臓や膀胱の感染症や炎症、結石、呼吸器系の疾患、頭痛、腰痛、リウマチ、健胃、下痢などに応用されているほか、血液浄化作用や抗菌作用なども知られています。

MATERIAL

この植物の開花期の全草、または花と茎

CLINICAL APPLICATIONS

Solidago virgaurea は、主に泌尿器系、とくに腎臓の疾患によく使用されます。ホメオパシーの尿道カテテルとも言われています。

■泌尿器系

- ・慢性腎不全：腎臓に痛みがあることがあり、腹部や膀胱、太腿などの周辺部へと広がります。尿量は少なめで、夜は尿色が濃くなります。排尿がしづらくて、悪臭があり、粘液や蛋白、リン酸塩などが尿中に排泄されます。
- ・膀胱炎
- ・尿路結石



(A)

- ・前立腺肥大
- その他
- ・腰仙角部の痛み
- ・坐骨神経痛
- ・リウマチ：肋間筋のリウマチ、足のリウマチ
- ・難聴：突然耳が聞こえなくなり、耳の中で幻音が鳴り響きます。蛋白尿を伴います。
- ・気管支炎：多量の膿性の痰を伴う咳が出ます。排尿困難を伴います。
- ・花粉症、猫アレルギー

MODALITY

- 多量の排尿
- 患部（腎臓周辺部）の圧迫など

Spigelia anthelmia ピンクルート [激しい痛み]

Spigelia anthelmia L. (*anthelmia quadriphylla*)

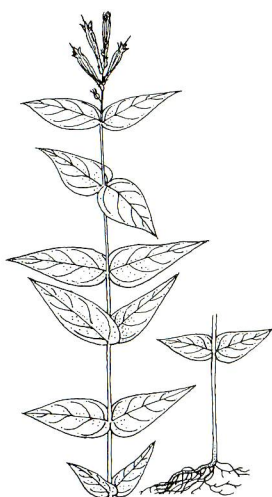
BACK GROUND

アメリカ原産 (南アメリカ)

Spigelia は、カリブ海地域と南米原産のマチン科の植物である1年草、ピンクルートです。一般的には、Pinkroot, Wormbush, Indian pink, West Indian pinkroot, Worm grass, Waterweed, Erva-lombrigueira, Demerara pinkroot, pink root, Pink spigelia, Kromantikankan, Kromanti-kankan, Yerba lombricera などと呼ばれています。学名の *Spigelia* は、オランダ人の植物学者、Adriaan van der Spigelius に由来します。草丈は、50cmほどに成長します。開花期には、ピンクの花を午後に咲かせます。

この植物はスピゲリンというアルカロイドを含んでいるため、毒性があります。このスピゲリンは、コニインに作用が似ています。主に心臓、とくに心内膜に作用します。またこの植物の根には、麻酔のような作用があります。現地のスリナム人は、この植物を伝統的に頭痛、神経痛、駆虫などに使用してきました。

現代医学でも、1739年に Patrick Browne によって導入され、そのケシのような麻薬性に注目されましたが、それに付随する強い毒性のために、すぐに使用されなくなりました。



MATERIAL

開花期のこの植物全体

FIRST PROVING

ハーネマン

MIND

Spigeliaタイプは、真面目で責任感があります。直観力があり、繊細かつ神経質で、心配ごとがあると動揺し、じっとしていることができません。気が焦って、どもってしまうことがあります。

先の尖った物を怖れます。タバコの煙を非常に嫌い、その煙で症状が悪化する傾向があります。コーヒーも好きではありません。お酒は好きです。温かい飲物も好きです。口臭がしたり、汗が臭いことがあります。寒がりです。

AFFINITY

Spigeliaは、主に神経系（とくに三叉神経、心臓など）、線維結合組織、眼、歯などに作用します。左側優勢レメディです。

CLINICAL APPLICATIONS

臨床では、主に頭痛や神経痛などで、眼の痛みを伴う場合に考慮されます。激しい、鋭く広がる痛みが特徴の1つです。

■神経系

- ・三叉神経痛：左側です。鋭く突き刺すような痛みがあります。
- ・頭痛、片頭痛：とくに左側に起こります。眼球付近の痛みを伴います。または後頭部や頸部で始まった痛みが、左の眼球にまで広がります。痛みはゆっくり始まり、ゆっくり終わります。日中に悪化する傾

向があります。痛みは、動き、触ること、揺れること、かがむこと、音、外気、タバコの煙などで悪化します。片頭痛には周期性がある場合があります。

- ・顔面神経痛：とくに左側。痛みのある場所が冷たく感じる場合があります。
- ・先端恐怖症：先の尖った物を怖れます。

■眼

- ・緑内障：とくに左眼。激しい眼の痛みを伴います。眼が大きく感じます。眼圧が高くなり、眼を動かすと痛みが悪化します。横を見るときには、体全体を横に向けなければなりません。眼は痛くて触れません。目の前に火花のようなものが見えることがあります。

・虹彩炎

- ・眼-鼻根-前額神経痛

- ・眼性片頭痛

■心臓

- ・狭心症：熱いお湯を欲しがります。心臓に鋭い痛みがあります。

- ・心臓弁膜症

- ・心膜炎：心臓を縫うような痛みがあります。

- ・動悸：激しい動悸は服の外から見てもわかります。深く深呼吸（吸気）したり、前かがみになったり、左下に寝たり、運動などで悪化します。

- ・不整脈

■その他

- ・甲状腺機能亢進症

- ・中耳炎、耳痛：とくに左耳。突然激しい耳の中の痛みが起こり、目や喉のほうへ広がります。

- ・副鼻腔炎：前頭洞の激しい、鋭く突き刺すような痛みがあります。

- ・歯痛：食後や冷たい水で悪化します。食事中は楽に感じます。

- ・関節リウマチ

- ・滑膜炎：とくに左側

- ・蟻虫感染

- ・幼虫移行症：回虫症によります。幼虫移行に起因する斜視、どもりなど。

MODALITY

- ▶ 休息、頭を高くして右下に寝ること、冷湿布（頭痛）、食事中（とくに温かい物）、乾燥した気候、日没後など

- ◀ 触ること、動くこと、タバコの煙、揺れること、日中、冷氣、寒さ、性交、音、目を動かす、かがむこと、左下に寝ること、吸気、湿気の多い日、お茶、冷たい水、食後、鼻をかむ、腕を持ち上げ

ることなど

RELATIONS

- Follows well : Aconite
- Followed well by : Arsenicum album, Digitalis, Kali carbonicm, Cimicifuga, Zincum metallicum

- Compatible : Arnica, Iris
- Complementary : Spongia
- Antidoted by : Aurum, Camphora, Cocculus, Pulsatilla
- Antidote to : Colchicum, Mercurius

Spongia tosta 焙焼した海綿(スポンジ) [空咳]

Roasted Sponge

BACK GROUND

Spongiaは、後生動物、側生動物、海綿動物門に属するスポンジ状の動物、カイメンです。後生動物の中でもっとも原始的な動物群です。実際に、この動物がそのままスポンジになります。事務用品や化粧のメイ



クに使われているものです。カイメンは世界各地に生息していますが、ホメオパシーでは、シリアとギリシアに近い地中海産のカイメンを原料とします。

カイメンは地球上で最初が多細胞生物と考えられていて、そのため、他の多細胞動物の後生動物、原生動物と区別され、唯一の側生動物生物と分類されています。最初が多細胞生物とあって、細胞同士の結合はかなり緩く、バラバラにしても個々で生きられ、またしばらくすると細胞が集まって再生します。6億5,000万年前の、先カンブリア時代の化石にも残されています。

カイメンは、比較的浅い海の岩礁の岩の下面のような、直射日光の当たらない日陰に、多数の細胞が集合した形で群生しています。成体はすべて固着性です。カイメンは組織中に、珪酸や炭酸カルシウムからなる

骨片やコラーゲン、スポンジンといったケラチン様海綿繊維などが存在しており、これらの骨格構造(Spicules)がカイメンの組織の強度を高めています。この骨格は、カイメンが産生する毒物や忌避物質などの化学物質とともに、他の動物による捕食防止に役立っているといわれています。カイメンの成長は非常にゆっくりで、寿命も長いようです。

カイメンは、種類によって多くの生物や微生物と共生します。カイメンを甲羅に植えて擬態するカイカムリガニや、カイメンの中に暮らす多くの生物もいます。またスポンジ構造の中は、非常に多様な微生物で構築されています。

スポンジですので、体表には孔が開いています(側面の小孔と上にある大孔)。海水は小孔から入り大孔から出て、内部にはこれらを結ぶ水溝と、鞭毛室と呼ばれる多数の腔所があります。鞭毛運動によって海水が循環し、この腔所に存在する多数の「えり細胞」が、海水中のプランクトンなどの有機物を栄養源として濾過摂食します。神経系はないとされています。

カイメンは、呼吸器系に作用する毒(とくに isoagatholactone)と、大腸菌に対して抗菌性をもつ生物活性物質をもっています。この毒性は、80℃以上の熱で破壊されます。

医薬の分野では、13世紀に Arnold von Villanova が、甲状腺腫の治療に用いて成功した記録があります。当時のヨウ素不足による甲状腺の異常に対し、ヨウ素を豊富に含むカイメンが好影響を及ぼすことが、およそ500年後に証明されました。

カイメンに存在する物質は多様で、多くの薬に応用されつつあります。カイメンを応用した薬には、白血病に効果のあるシトシン・アラビノシド(フロリダ産のカイメン)や、抗ウイルス作用をもつアデニン・ア